

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

E-mail: bajapan@hi-ho.ne.jp

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

振替口座 東京8-91022

発行人 木村侃丘

定価1部郵送による年決め2,400円

平成13年3月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

第85回理事会と賀詞交歓会を開催

社団法人電池工業会は1月12日、東京プリンスホテルにおいて第85回理事会と、新年賀詞交歓会を開催した。理事会では、審議事項の承認、各活動報告が行われ、賀詞交歓会では優良従業員表彰式などが行われた。

定例理事会は安田会長が議長となり次の議案を審議した。

第1号議案 副会長選出の件

事務局木村専務理事から、前副会長東芝電池株式会社の藤原前社長の後任として、東芝電池株式会社の社長に就任された鈴鹿社長を副会長に推挙する旨の説明があり、原案どおり可決決定された。

第2号議案 賛助会員入会の件

事務局木村専務理事から、配布資料に基づき本多電機株式会社の賛助会員入会（正会員脱会）申込があった旨の説明があり、原案どおり可決決定された。

第3号議案 平成12年度優良従業員表彰の件

会員各社において顕著な功績のあった者を優良従業員として表彰することを承認した。表彰された方々は次の12社16名（順不同、敬称略）。

酒井次夫（SHIマイクロパーツ）、細尾和正、佃 勝広



（三洋電機）、矢野重雄（ジーエス・メルコテック）、飯島貞治（新神戸電機）、後藤正広（東洋高砂乾電池）、寺本忠義、樋口利孝（日本電池）、上羽庄太郎（日立マクセル）、河合不二夫（FKD）、藤田 洋（古河電池）、小林正志（本多電機）、江端定雄、岸 哲二（松下電池工業）、前野 茂、湯川信明（ユアサコーポレーション）。

第4号議案 報告事項

①臨時理事会開催の件

木村専務理事から次の2件の事項につき、理事会の承認が必要のため臨時理事会の開催要請があり、可決決定された。

・リサイクル法改正で電池工業会で新たな組織を作る必要がある。

・認定・講習事業で定款の変更が必要である。

以下②～⑥の報告があった。

②UN規制改正について

③リサイクル法改正について「資源の有効な利用促進に関する法律」の電池業界への影響について

④蓄電池設備認定事業及び講習事業関連法改正について

⑤平成12年電池及び電池器具出荷状況（一部予想）について

平成12年1月～12月の出荷状況は、鉛蓄電池関係1,582億円対前年比101.6%、アルカリ蓄電池

平成13年 新年賀詞交歓会

社団法人 電池工業会



関係1,845億円対前年比101.1%、リチウムイオン電池3,114億円対前年比111.8%、一次電池2,119億円対前年比97.5%、電池器具関係195億円対前年比93.6%、電池合計で8,856億円対前年比103.6%である。

⑥リチウムイオン廃電池の海外持ち出しについて

第5号議案 各部会報告

①一次電池部会

一次電池特にアルカリ乾電池と、マンガン乾電池の出荷価格の推移が示され、価格の下落が著しい、電池の中味、使い方と環境対策等を広く再認識して頂く為のイベント「でんちフェスタ」を池袋のサンシャインシティで開催した事等の報告があった。

②小形二次電池部会

小形二次電池の2000年度上半期の販売状況の報告と、「リサイクル協力店くらぶ」加入店が30,308店と前年比309%になった事、「充電式電池もっともとりサイクルキャンペーン」の実施で、回収量が63,458kgと前年比189%と大巾に増加、大きな成果を上げた事等の報告があった。

③二次電池部会

自動車用電池が、前年比数量が103%、金額が101.9%と景気に回復の兆しが見えてきたが、営業の第一線で見ると限り価格の下落は激しく金額が伸びているとは思えない事、再資源化に関する

活動(鉛のリサイクル)で、2000年上期の回収率は103%、再利用率は98%である事、回収率はここ数年100%を超えているのは海外からの輸入品の影響と見られ、このただ乗り対策が急務(メーカー5社がリサイクル費用20千円/トン負担している)である事、使用済み電池を循環資源とみた回収リサイクルシステムを研究中である事等の報告があった。

理事会終了後、平成12年度優良従業員の表彰式が行われ、各員に賞状と記念品が授与された。

表彰式に続き経済産業省岩田課長を始めとした電池製造メーカーなど関係者を多数招いた「新年賀詞交歓会」が行われた。

和やかな雰囲気の中、会は終了した。



リチウム系電池の航空輸送規制対応

IT製品等、活発な電子機器業界や物流業界と、 新たな協力関係を築く！

日米共同・VTCPプログラムの推進

・米国政府との、信義と信頼にもとづく日米電池業界の自主取り組みは、まず、電池工業会・会員各社への徹底を(11月・17社45名)行ない、引き続き、輸送のカナメとなる国土交通省と、航空輸送業界(10社・5団体)に対し、昨年12月、交流の場を持ちボランティア・トランスポーター・コミュニケーション・プログラム(VTCP)の周知徹底を行なった。

・今般、会員企業350社を有する、日本機械輸出組合(以降、日機輸と称す)のご支援とご協力を得て、特に、リチウム電池等を使用する機器業界を中心に、関連する物流業界と合同で、この2月15日、本プログラムの導入説明会を実施。

・貿易、基準認証、環境法規、貿易関連環境対策等、本件に関わる8つの委員会に、機器業界から33社、物流業界から18社で、総計75名の参加があった。

当工業会からは、小形二次電池部会・国連輸送規制対応委員会(8名)が出席し、約3時間にわたり、有意義な意見交換を図る事ができた。

○会議の内容について

1. 日本機械輸出組合・今村リーダー(国際業務部門・環境安全グループ)のご挨拶

・日米の電池業界が、2月にスタートしたこのVTCPプログラムは、特に、海外ビジネスの多い電子機器業界と、それを支える物流業界にとって極めて重要である。

・本件は税関管理や環境法規等に関連があるので、当組合として協力する事になった。参加企業の皆様方は、本日の内容を良く理解の上、リチウム電池の輸送に関しより安全な管理の強化に繋げて戴きたい。



主催者側：(左から) 斎藤氏、藤本氏、今村氏



熱心に聴講する参加者(51社75名)

2. 電池工業会・斎藤委員長(国連輸送規制委員会代表・三洋電機)の挨拶

・本プログラムは、機器業界と物流業界の皆様のご理解とご協力があってこそ、米国政府との約束実現に多いに繋がるものである。そういった意味で、ラベル表示や、梱包の変更仕様に対する承認等、より迅速な対応に協力戴く様、重ねてお願いしたい。

3. VTCPプログラムの紹介と意見交換

- (1) まず、国連関係の担当事務局、藤本部長から、3名の講師を紹介し併せて工業会の概要と、全電池の生産統計や用途分野、並びに特にリチウム・イオン電池等の輸出の実態を紹介した。
- (2) 講師によるプログラムの説明では、まず、国連輸送規制の現状と今後を(ソニー・村野氏)、次に啓蒙冊子と表示ラベルの規格等を(ソニー・福田氏)、また必要な梱包基準とパイロット向けのShipping Paper(松下電池・森田氏)に分けて、それぞれOHPを用いて詳しく紹介した。
- (3) 参加者から、多岐にわたる質問が出された。特に、機器メーカーの立場として、本プログラムの対象外となる同梱品の解釈範囲や、OEMビジネスを有する

機器メーカー等プログラムの実施者の範疇、並びに梱包の判断基準や緊急電話番号の取得に関するChemtrec社への対応等であった。講師からは、判断基準の幅や、各社が自主的に展開できる範囲等を含め、色々な観点から詳しい回答が為された。

- (4) また、当工業会から、VTCP登録会社と窓口担当者のリストを外部向けの公表資料として、全参加者に配布した。このリストをもとに、今後、電池業界と機器・物流業界との間で密なコミュニケーション体制を築くと共に、結束して推進する事を参加者一同で確認した後、説明会は成功裡に終了した。

4. 機器業界等の強い要望

なお、機器業界等の強い要望に対処する為、電池工業会は、輸出比率の高い東南アジア地域での説明会を4月頃に、またVTCP世界会議を欧州民生用電池工業会(EPBA)の参加を得て、6月頃米国シアトルで行う事を予定。リチウムイオン電池等海外出荷比率が高く、国際的責務の極めて大きい日本の電池業界としては、本年前半で、このVTCPプログラムを拡充し、実質的な国際プログラムとして定着させる事となった。

■表1:VTCPプログラムの登録会社と窓口担当者一覧(16社)

No.	会社名	部門・役職:担当者氏名	Tel/Fax
1	株式会社 エスアイアイ・マイクロパーツ	品質保証担当課・課長:佐々木忠雄	022-391-9331/022-391-9330
2	株式会社 ユアサ コーポレーション	コンシューマ電池事業部・企画担当:永田 尚義	03-5742-7848/03-5742-7851
3	FDK 株式会社	電池カンパニー・第1技術部第2技術課 課長:村田千洋	053-576-5152/053-576-5152
4	東洋高砂乾電池株式会社	電池事業部技術部開発課・課長代理:平井 実	0287-43-0831/0287-43-3394
5	株式会社 エイ・ティー・バッテリー	応用技術部・部長:向 和夫	03-5479-2230/03-5479-2239
6	ジーエス・メルコテック 株式会社	技術部技術企画グループ・グループ マネージャ:園田輝男	075-311-1340/075-311-1607
7	東芝電池株式会社	開発センター・技術管理グループ グループ長:西川玲二	03-5479-3871/03-5479-3890
8	古河電池株式会社	アルカリ特機事業部・担当部長:富田行雄	045-336-5087/045-333-2534
9	エヌイーシーモバイルエナジー 株式会社	技術本部・課長:川上義信	028-655-6522/028-653-2450
10	新神戸電機株式会社	事業本部・事業企画部・副技師長:菊岡孝雄	03-5695-6117/03-5695-6143
11	日本電池株式会社	研究開発本部・アドバンスド・バッテリー開発室:開発担当部長:村田利雄 グループマネージャ:寺崎正直	075-316-3612/075-316-3105
12	松下電池工業株式会社	営業本部室・国際標準化推進グループ主担当:西村尉辞副参事:森田是宣	06-6994-4441/06-6994-9107
13	三洋電機株式会社 ソフト エナジーカンパニー	経営企画室・環境CS部 部長:森脇和郎	0799-23-3952/0799-23-3911
14	ソニー株式会社 コアテクノロジー&ネットワーク カンパニー エナジー カンパニー	西研究所・渉外環境室 課長:村野寛治 課長:福田元彦	03-5435-3356/03-5435-3456
15	日立マクセル株式会社	一次電池事業部・設計部・主任技師:浅田 朗 二次電池事業部・設計部 主任技師:松本和伸	0794-63-8054/0794-63-8058 075-956-4161/075-956-4163
16	三菱電線工業株式会社	先端事業部・リチウム電池部主席部員:福本明宏	0727-81-8431/0727-81-8866

備考:米国電池工業会と米国政府・運輸省(DOT)には、英文名称で登録とする。

■表2:日本機械輸出組合共催VTCPプログラム説明会・出席者一覧

参加者:総計75名(機器業界:33社(団体を含む48名)、物流業界:18社(27名))

No.	会社名	部 門	人数	No.	会社名	部 門	人数
1	旭光学工業	カメラ開発センター	2	28	ニコンロジステイクス	国際物流部、ロジスティック技術部	2
2	伊藤忠商事	物流総括部、国際貿易管理室	2	29	日製産業	物流管理課	1
3	NECロジステイクス	航空輸送部	1	30	日通航空	輸出第2部、国際貨物部	2
4	エム・オー・エシステム	東京輸出営業部	1	31	日本ビクター	循環システム推進部	1
5	オリンパス光学工業	貿易管理室、物流推進部、品質保証部	3	32	バイオニア・サービスネットワーク	サービス部品部	1
6	カシオ計算機	輸出管理室	1	33	バイオニア・シェアードサービス	国際グループ輸入支援チーム	1
7	キャノン	イメージコミュニケーション事業本部輸出業務部、環境技術センター	3	34	日立物流	エンジニアリング開発本部、航空第1営業部	2
8	京セラ	光学機器事業本部	1	35	日立工機	輸出管理本部、精機事業部	3
9	ケンウッド	環境推進セクション	1	36	日立国際電気	通信情報システム事業部	1
10	ケンウッド・ロジステイクス	生産物流営業部	1	37	日立製作所	情報通信グループ統括本部	1
11	コニカ	カメラ&デジタルイメージング事業部	1	38	日立超LSIシステムズ	品質保証部	1
12	コマツ	エレクトロニクス事業本部	1	39	阪急交通社	国際輸送事業本部	1
13	コマツ物流	国際輸送グループ・空送チーム	3	40	日立マクセル	輸出管理本部、マクセルビジネス	2
14	鳥取三洋電機	情報通信事業本部	1	41	プラザー工業	環境CS推進部	1
15	三洋電機貿易	国際商事本部、サンヨーロジテック	3	42	富士写真フイルム	光機部・技術グループ	1
16	三洋電機	産機システムカンパニー マルチメディアカンパニー	2	43	富士通	情報処理事業推進本部、国際営業本部	2
17	三洋ハイテクノロジー	SMT事業部	1	44	三菱電機	環境保護推進部	1
18	島津製作所	CS統括部	1	45	名港海運	航空貨物部	1
19	シャープ	環境安全本部	1	46	郵船航空サービス	大阪支店	1
20	住友商事	東京物流部	1	47	リコー	通商渉外室、品質技術センター	3
21	住友ロジステイクス	輸出第2部	1	48	リコーロジステイクス	国際業務センター	2
22	セイコーインスツルメンツ	輸出入業務部	1				
23	ソニー		1	No.	業界団体	部 門	人数
24	ソニー幸田	経営企画部	2	1	日本時計協会	技術部	1
25	東芝	MC海外営業部、PC事業部	2	2	家電製品協会	技術部	1
26	東芝物流	海外運輸部	1	3	日本電機工業会	環境部	1
27	ニコン	映像カンパニー	2				

「早めのバッテリー交換、PRキャンペーンクイズ」抽選会

・二次電池広報委員会では、去る1月17日(木)「早めのバッテリー交換、PRキャンペーンクイズ」の抽選会を行いました。今回の応募総数は32,500通で、昨年の約3倍に近い多数の応募があり、趣向を凝らした応募ハガキや、ホームページでの回答も寄せていただきました。関係者一同、この紙面を借りて感謝申し上げます。なお正解は「③」になります。

この多数の正解者の中から、10万円の旅行券3本、3万円のグルメ券10本、又1,000円のクオカード100本の当選者は次のとおりです。

○10万円の旅行券:3名

- ・吉野 謙二様(福岡)・山川 啓子様(三重)
- ・深谷 信恵様(東京)

○3万円のグルメ券:10名

- ・横田美佐江様(東京)・森 美智子様(千葉)
- ・神足 まゆ子様(福岡)・山田 ひろみ様(福岡)
- ・上奥 正則様(広島)・上野 一夫様(宮崎)
- ・泉 圭子様(宮城)・山村 真弓様(静岡)
- ・江原 正洋様(大阪)
- ・嘉屋 久代様(北海道)

○1000円のクオカード:100名

当選者には、それぞれ発送をもって発表にかえさせていただきます。おめでとうございます。



広報委員による抽選会



キャンペーンポスター

平成13年 1月度の電池工業会活動概要

部会	1月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別 その他	12日(金)	理事会	
		優良従業員表彰、賀詞交歓会	
		一次電池部会	*環境関連法律の内容、動向、4月施行に向けた取り組み報告
	16日(火)	容器包装識別表示WG	*家電製品協会ガイドラインの確認、小型パックの表示省略について
	17日(水)	環境総合委員会	*工業会環境行動計画の見直しを行う。
二次 電池 部会	20日(土)	事務局会議	*ブレーンストーミング形式で現状の問題点を抽出し、解決方法を決定
	9日(火)	小形鉛分科会	*H13年度改正のJIS(小形シール鉛蓄電池)の審議方針。高温寿命試験方法
	10日(水)	二次電池リサイクル(委)講演会	*改正リサイクル法の講演会(講師:福島委員)
	11日(木)	二次電池環境委員会	*「製品アセスメント」ガイドの詰め、今後の運営協議
		EV鉛分科会	*電動車両協会からの依頼事項の進捗状況。IEC規格の現状と今後の対応
	15日(月)	(産電)、(小シール)合同リサイクル分科会	*小シール鉛の指定再資源化の運用協議
	16日(火)	自動車鉛分科会	*H13年度改正のJIS(二輪車用鉛蓄電池)の審議方針。共通部品の改造
	17日(水)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	*新リサイクルシステムに対する意見交換
		電気車鉛分科会	*分科会資料の最終審議。
	18日(木)	二次広報委員会	*早めの交歓キャンペーン抽選会
	19日(金)	(自)需要予測小委員会	*今年度の予測評価と次年度の需要予測の審議
	22日(月)	産業電池技術サービス分科会	*蓄電池設備定期点検リーフレット作成他
	23日(火)	二次資材委員会	*懸案事項の審議
		据置鉛分科会	*実使用電池の性能評価。H13年度改正の電池工業会規格類の改訂方針
	24日(水)	充電器分科会	*火災予防条例案審議/安全指針原案検討他
		電気車統計分科会	*10月～12月の統計データの確認と審議
		小形シールリサイクル分科会	*小形二次電池の指定再資源化での小形シール鉛の運用
		EV小委員会	*電動車両協会派遣委員の見直し。今後の取り組み内容
	26日(金)	産電統計分科会	*10月～12月の統計データの確認と審議
		自動車用電池技術サービス小委員会	*電池工業会ホームページ掲載内容の審議とまとめ。
	31日(水)	HEV用電池分科会	*電動車両協会委員会報告。技術動向調査報告
		小形シールリサイクル分科会	*小形二次電池の指定再資源化での小形シール鉛の運用
小形 二次 電池 部会	10日(水)	リチウム二次分科会	*IEC規格(統合、安全、組電池)の継続審議他
	15日(月)	アルカリ分科会	*ニカド電池、ニッケル水素電池について回収関係費用見直し
	18日(木)	海外環境・米国RBRCガイドラインWG会議	*2001年スタートの新RBRCプログラムの解説資料を作成検討
		海外環境・世界の規制ガイドブックWG会議	*2001年3月予定で、改訂版の作成を進める
		再資源化委員会リチウムイオン分科会	*リチウムイオン系の回収関係費用の見直し
	19日(金)	工場環境委員会	*PRTR法対応電池版ガイドブックの推進
		ニカド/ニッケル水素分科会	*IEC規格(統合、安全、組電池)の継続審議及び蓄電池用語報告と分科会効率化検討
	23日(火)	広報委員会	*2000年回収キャンペーンの総括と2001年度対応(案)の審議
	24日(水)	業務委員会	*小形二次電池の12月度出荷実績の検討
		日米共同・VTCPプログラムの17社担当者会議	*ラベル、USでの緊急番号取得、梱包基準等プログラムの進捗確認
		国連輸送規制対応・合同会議	*2004年度迄の活動計画の検討。VTCPとICAO対策を優先
	26日(金)	再資源化委員会	*改訂リサイクル法への対応
		海事検定協会・国内危険物対応委員会()	*12月ジュネーブ会議における、リチウム電池の審議結果の報告
一次 電池 部会	29日(月)	欧州最大リサイクラー・SNAM社との情報交換会	*欧州の小形二次電池・リサイクル処理の状況や日本の動向を紹介
	30日(火)	貿易関連環境問題対策会議(日機輪)	*欧州のWEEEの進捗状況等の報告 *通産省LCAプロジェクト対応の検討
	11日(木)	広報委員会	*2001年度活動内容(案)の決定
	18日(木)	PL委員会	*安全の啓蒙活動内容(案)の確認
	25日(木)	IEC/規格小委員会	*JIS規格制定やTC21関係国際規格の課題審議など
		12.2回 標準化委員会、JIS制定、IEC国際回答原案	*本年度二回目の委員会、活発にJIS制定(水溶液を用いる一次電池の安全性)等を審議
	26日(金)	器具技術委員会	*SBA規格化として蛍光灯付携帯電灯規格を検討した。

業界動向

***松下電池工業** 河瀬常務、今後はリチウムイオン電池、特に角形をメインに開発の強化と増産をして行く旨を語る。

(2000年12月29日付 電波)

***三洋電機・ソフトエナジーカンパニー** 井植社長、小形二次電池事業について意欲的な事業展開をして行く旨を語る

(12月30日付 電波)

***トヨタ自動車** ガソリンエンジンと電気モーターで駆動するハイブリッドシステムの簡易タイプを開発、2001年には高級セダン「クラウン」に搭載へ (12月30日付 電波)

***三洋電機** フォード社(米)に対し、ハイブリッド車用電源システムを独占供給する事で合意、フォード社では2003年からSUV車「エスケープHEV」に当該システムを搭載へ。(2001年1月5日付 日経、1月6日付電波、1月9日付 日経産業)

***カプコン** 携帯電話各社の機種種の約7割に対応できる携帯電話充電器を2月に発売、店頭での有料サービスを開始。

(2001年1月5日付 日経産業)

***松下電池工業** デジタル機器用に、強負荷パルス放電性能を30%向上させたアルカリ乾電池単三、単四の両サイズを開発、3月1日から発売。

(1月10日付 電波)

***トヨタ自動車&GM(米)** 燃料電池の燃料となる水素の取り出しを、ガソリンの改質方式でいく事で両社が合意、次世代自動車の開発で主導権の確保を目指す。

(1月10日付 毎日)

***日本電池** 大型サーバーの電源管理用に無停電電源装置(UPS)の新機種を開発、1月31日から発売へ。

(1月12日付 日経産業)

***マツダ** フォードモーター&ダイムラークライスラーと共同研究中の燃料電池を搭載した次世代カーを、2005年には市場に投入予定。

(1月12日付 日刊工業)

***電池工業会** 安田会長、小形二次電池が貢献、2000年の電池総出荷が77億個と前年比7%増の予定である旨を電池工業会の賀詞交換会で語る。

(1月13日付 電波)

***ダイムラークライスラー、フォード、三菱重工、三菱自動車** 燃料電池車の共同開発で合意、トヨタ&GM連合との主導権争いは激化へ。(1月15日付 日刊工業)

***日本電機工業会&電池工業会** 無停電電源装置(UPS)のバッテリー交換は計画的に交換をして欲しい旨のポスターを作成し新聞等に掲載、啓蒙活動を開始。

(1月15日付 日経、日経産業、日本工業、1月18日付 日刊工業)

***松下電池工業** 乾電池「見わけのバック」が、パッケージコンテストでゴールドスター賞を受賞。

(1月15日付 電波)

***東芝&IFC(米)** 燃料電池開発の合併会社を4月に設立、固体高分子型燃料電池(PEFC)の2003年からの量産を目指す。

(1月18日付 日刊工業)

***東芝** 燃料電池を組み込んだ無停電電源装置(UPS)システムを商品化、1月17日から営業活動を開始。

(1月18日付 電波)

***デジタルカメラ** 急成長を見せているデジカメ市場は、300万画素製品の発売で高画質競争が一段落、今後は画質からデザインと機能を重視へ。(1月19日付 日経産業)

***三洋電機** デジタルカメラを2001年は5割増産し600万台に拡大させる予定。

(1月20日付 電波)

***小形二次電池リサイクル** 国内電池メーカー13社は、小形二次電池の回収リサイクルを目的とした団体(JBRA:ジャパン・バッテリー・リサイクリング・アソシエーション)の設立で合意、回収リサイクルを共同展開へ。

(1月21日付 日刊工業)

***日本電池** 田中社長、大幅合理化で自動車用電池で巻き返しを図る事、次世代の自動車用電池として、リチウムイオン電池を本命視し研究と投資を行っている事等を語る。

(1月23日付 日刊工業)

***ユアサコーポレーション** 大坪社長、今後は社内分社制度の導入と収支責任の徹底等の改革、及び海外事業の一層の強化を進めて行く旨を語る。

(1月23日付 日刊工業)

***三井化学** リチウムイオン電池用セパレータの生産を薄膜タイプに特化し、これの生産能力を年内を目処に倍増へ。

(1月23日付 化学工業日報)

***松下電池工業** 安田社長、2003年度のグローバル売上5000億円を計画している事、又、一次電池については徹底的な差別化戦略の展開で、グローバル生産シェアナンバーワンを目指す考えである事等を語る。(1月23日付 電波)

***日立製作所** 内容積の増加等の工夫により長寿命化をした単三形アルカリ乾電池を4月21日から発売。

(1月23日付 日経産業)

***経済産業省&環境省** 両省のリサイクル検討会の合同会議は、小形二次電池の回収で学校などにも回収拠点を設置、回収とリサイクルを強化する旨を報告。

(1月23日付 電波)

***東芝** 携帯情報端末(PDA)を今夏から日欧米で発売、当該市場に参戦、PDA市場は競争が激化へ。

(1月29日付 日本経済)

***日立マクセル** 高付加価値品へのシフトを加速、電池分野はPDA等のモバイル機器向けのリチウムイオン電池を強化。

(1月31日付 電波)

蓄電池設備整備資格者 講習修了考查合格者 (福岡会場分)

電池工業会は、1月16日と17日の両日福岡県で開催した、蓄電池設備整備資格者講習の修了考查に合格した方々の氏名を発表した。

<福岡県 合格者50名>

西村史郎、渡部峰生、平間正信、麓久仁雄、西山史晃、高谷尚樹、紺谷里史、小松弘樹、相馬健史、中村靖彦、谷口正一、高田敬介、谷口茂人、幸屋辰猪、北野義信、福田幸夫、中村進、西原健司、野口雄喜、草野浩一、武谷恵、金島哲、石井高浩、上田敦紀、奥田基、飯田実、小村徳晃、田中悟史、中野成人、勝部茂、梅本道一、能勢茂、和田利郎、田元光彦、松石知諭、伊藤繁保、岩朝勝己、坂本賢吾、曾我周水、石井英明、石井毅、牧園寛、河内靖、岩村龍士郎、鳥丸正彦、実松武史、田中幸治、瀧川定雄、上沢克己、松岡道治。

(敬称略、順不同)

.....● 新製品ニュース ●.....

ケータイ用電源 “どこでもトーク”をラインナップ

松下電池工業(株)(社長 安田 幸伸)は、携帯電話の電池切れ緊急対応商品として、いつでもどこでも手軽に持ち運べ、電池切れ時に電源として使用・充電できる「ケータイ用電源」“どこでもトーク”「P」シリーズを販売していますが、この度新たに「N」「F」「D」シリーズを3月1日から追加販売します。

このラインナップにより、“どこでもトーク”は、ドコモ携帯電話のほとんど全ての機種に対応します。



[特長]

1. 約3時間連続通話可能
2. 各シリーズに対応した過充電・過放電防止回路を採用
3. 軽くてコンパクト

携帯に便利な 「リチウムライト付顕微鏡」を発売

松下電池工業(株)(社長 安田 幸伸)は、ルーペ部分が伸縮して、倍率が60～100倍の「リチウムライト付き顕微鏡」を3月1日から発売します。

本製品は、コンパクト・軽量、プレパラートを載せる受け台付きで、ライトで明るく照らしながら調整つまみで細かな観察が可能です。用途は、材料分析や各種検査・観察など幅広い使用が可能です。



[特長]

1. 倍率は60～100倍(従来品:BF-959は、倍率10～30倍)
2. 明るさ2001x(ルクス)のライト付き ・リチウム電池 CR123A 1個 使用
3. 携帯時はコンパクト、使用時にはルーペ部分が伸びて使いやすい可変式
・大きさ:約幅65×奥行40×高さ105mm/伸ばした時 高さ155mm
4. 重さは約90g(電池含む)

監視ソフトを標準装備した パソコン用のミニUPS“YUMIC-SNB007A/010A”を新発売 (POS/SOHOシステム・ネットワーククライアント用)

YUASA(社長 大坪 愛雄)は、UPS監視ソフトを標準装備したことで、ネットワーク上でクライアントが端末機から電源管理できるパソコン用ミニUPS“YUMIC-SNB007A(750VA)”および“YUMIC-SNB010A(1kVA)”を、2月15日から発売を開始します。



[特長]

1. UPSモニタリングソフト“Yupcon-S/2000”を標準装備
2. コストパフォーマンスを追求
3. 常時商用給電方式の機能を強化(ラインインタラクティブ方式)
4. サージ保護回路付き
5. 長寿命バッテリーを採用

11月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成12年11月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	644,593	75,526	94%	95%	6,654,333	780,421	108%	105%
全電池合計	643,510	73,827	94%	95%	6,641,750	762,601	108%	105%
一次電池計	481,914	19,245	94%	88%	4,653,921	173,963	105%	99%
マンガン乾電池計	121,351	3,094	84%	71%	1,202,488	27,315	90%	80%
単一	18,865	1,052	69%	66%	142,581	7,715	80%	78%
単二	11,288	439	71%	67%	96,591	3,623	89%	85%
単三	63,001	1,165	91%	74%	609,417	10,583	85%	74%
その他	28,197	438	87%	82%	353,899	5,394	107%	94%
アルカリ乾電池計	172,445	9,793	90%	88%	1,439,603	79,560	103%	99%
単三	108,772	5,283	91%	90%	870,342	41,805	102%	98%
単四	36,943	1,991	88%	86%	369,577	20,009	113%	109%
その他	26,730	2,519	85%	84%	199,684	17,746	94%	93%
酸化銀電池	84,160	1,010	120%	107%	910,809	11,105	113%	104%
リチウム電池	100,101	5,162	98%	100%	1,057,100	53,904	121%	113%
その他の乾電池	3,857	186	98%	87%	43,921	2,079	99%	85%
二次電池計	161,596	54,582	95%	97%	1,987,829	588,638	116%	107%
鉛電池計	4,351	15,211	97%	104%	44,090	142,167	105%	102%
自動車用	2,497	9,561	103%	105%	22,369	80,123	103%	102%
二輪用	436	813	92%	92%	5,082	9,412	102%	95%
小形シール	1,178	1,191	86%	95%	14,191	14,075	106%	99%
その他	240	3,646	115%	110%	2,448	38,557	117%	107%
アルカリ電池計	114,789	13,818	90%	85%	1,507,093	175,802	113%	102%
完全密閉式	46,355	5,083	95%	83%	564,191	62,731	103%	89%
ニッケル水素	68,412	8,325	87%	86%	942,680	108,552	120%	110%
その他のアルカリ電池	22	410	110%	83%	222	4,519	106%	103%
リチウムイオン電池	42,456	25,553	111%	101%	436,646	270,669	130%	114%
器具計	1,083	1,699	83%	97%	12,583	17,820	98%	94%
携帯電灯	674	635	75%	80%	7,612	7,086	99%	95%
電池器具	409	1,064	100%	110%	4,971	10,734	95%	92%

11月度電池輸出入実績(大蔵省貿易統計)

(平成12年11月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	302,180	36,297	103%	100%	3,681,018	419,309	117%	111%
一次電池計	166,618	3,607	106%	94%	1,982,067	43,511	112%	109%
マンガン	43,254	396	112%	88%	556,494	4,691	98%	91%
アルカリ	21,534	421	87%	93%	311,113	5,675	114%	84%
酸化銀	41,501	503	136%	132%	380,608	4,777	108%	101%
リチウム	53,231	2,170	90%	91%	680,627	26,932	127%	123%
空気亜鉛	2,208	44	137%	105%	21,204	403	111%	82%
他の一次	4,890	74	226%	67%	32,022	1,034	171%	116%
二次電池計	135,562	32,690	99%	100%	1,698,951	375,798	123%	111%
鉛蓄電池	643	958	90%	89%	8,091	11,416	107%	89%
ニカド	36,320	3,330	95%	85%	459,654	43,641	108%	98%
ニッケル鉄	11	1	4%	5%	988	98	8%	6%
ニッケル水素	55,059	6,801	86%	88%	764,961	89,991	121%	110%
リチウムイオン	33,173	18,996	130%	107%	337,303	204,667	155%	117%
その他の二次	10,357	2,604	129%	130%	127,955	25,985	159%	122%
全電池合計(輸 入)	53,613	3,588	106%	92%	403,229	37,605	103%	100%
一次電池計	45,614	1,039	98%	105%	335,494	9,218	95%	109%
マンガン	16,823	247	101%	114%	109,941	1,536	95%	102%
アルカリ	25,928	636	94%	105%	206,203	4,814	95%	102%
酸化銀	80	2	32%	65%	553	22	69%	80%
リチウム	1,663	94	115%	69%	12,719	966	119%	122%
空気亜鉛	97	1	62%	25%	3,431	129	160%	150%
他の一次	1,024	59	162%	334%	2,646	1,752	55%	134%
二次電池計	7,999	2,549	194%	88%	67,736	28,386	177%	97%
鉛蓄電池	541	1,288	96%	100%	5,172	12,439	115%	110%
ニカド	2,312	611	145%	128%	15,327	5,832	106%	108%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	8	13	792%	95%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の二次	5,145	650	263%	57%	47,230	10,101	246%	82%